

CSRレポート 2025

マルイ食品株式会社の社会的責任活動報告
— 2024年度の報告 —



マルイ農協グループへようこそ

マルイ農協のはじまりは、1939年に8人の情熱的な養鶏農家で設立された西出水養鶏組合です。1957年には出水養鶏農協となり、1984年にマルイ農協と呼称を変え、今日を迎えています。マルイの原点は自前の思想です。

自分たちでヒナや飼料を造ること。自分たちで生産から処理加工、そして物流まで行うこと。この自前の思想がやがて情報部門や環境保全型のエコロジー産業までを含めた大きな総合体を生み出しました。



事業紹介

マルイ食品株式会社の鶏卵・鶏肉・加工食品の原点は、自分たちの生産物は最後まで自分たちで責任を持って消費者にお届けするという思想です。

ひなの生産、飼料の製造、鶏卵・鶏肉の生産から処理加工、販売、物流、環境保全型エコロジー産業までを含めた養鶏のインテグレーターとして、お客様に安全で安心できる商品をお届けしています。



CONTENTS

トップ方針挨拶	P4
食品安全方針	P6
環境方針	P10
・地域貢献について	P12
・健全な職場環境の維持・推進について	P13
行動指針	P14
会社概要	P15

トップ 方針挨拶

私たちは自然豊かで環境的に恵まれた北薩の地で、養鶏を生業としています。組合員農家による鶏卵と鶏肉の生産を軸として、エサの製造、ひな生産、生産物の処理・加工・販売・物流、肥料を含むバイオマス事業などを一貫して行う、養鶏のインテグレーターとして事業を営んできました。設立当初より消費者の皆様、お取引業者様、近隣住民や行政の方々、従業員や生産者とともに歩んでまいりましたが、時代とともに企業に求められることも多種多様に変化しつつあります。脱炭素社会へ向けての再生可能エネルギーの活用、技能実習や特定技能で働く外国人の増加への対応などです。常に我々に求められる社会的責任とは何かを問い続け、それらを全うすることに努めてまいります。

マルイ農協グループでは基本方針の一つとして、働く人の「ウェルビーイング」の実現を掲げています。老若男女、国籍などを問わず、すべての働く人が心身ともに、また社会的にも良い状態である職場環境をつくるとともに、地域社会との共生、コンプライアンスの徹底に努め、皆様に信頼されるエシカルな商品をお届けします。

マルイ農協グループ
代表 高松 信吾

マルイ食品株式会社は鹿児島県出水市に本拠を置く養鶏専門のマルイ農協を母体とする地場企業です。マルイ農協の生産者（組合員）が生産した鶏卵、鶏肉を処理、加工、販売までを一手に担っています。1975年の設立以来、地元との繋がりや地域環境に配慮し、そして地元を支えられながら活動をしてまいりました。近年では地元小学校や中学校の工場見学や職場体験学習も対応させていただいています。命の大切さや食の大切さを伝えられればと考えます。近隣の小学校へは「ふるさと文庫」として毎年図書贈呈も行ってきました。「食」を提供する会社として、これからも食育活動への協力に積極的に取り組んでいきたいと考えます。

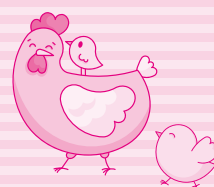
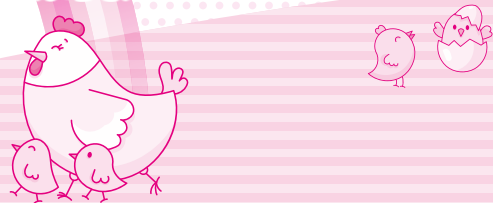
マルイ食品株式会社は「安全・安心・おいしい」をお届けするために、商品開発も積極的に行っていますが、品質管理の徹底や仕組みの構築にも力を入れています。ISO や HACCP の認証取得、品質管理の強化やアレルギー対策、異物混入対策等々検査体制も含めて強化をしています。これからも更なる品質向上を目指して取り組んでまいります。

これからも我々は、消費者、お得意先、株主、従業員、地域の皆様、全てのステークホルダーに貢献できるように努めてまいります。そして、社会的責任もしっかり果たしていきたいと考えます。

マルイ食品株式会社
代表取締役社長 宇都 浩司

食品安全方針

私たちマルイ食品株式会社は、グループの強みである生産から販売まで一貫したシステムで人間力と現場力を根本に改善・維持する力を持って、安心・安全・信頼を共有・実践していくことで、お客様の満足度向上や信頼構築を図ってまいります。



食品安全方針

1. お客様へ「安全・安心・おいしい」をお届けするために、原材料の調達から食卓まで、フードチェーン全体の品質保証の仕組みを構築します。
2. 「食品安全目標」を設定し、気候変動も考慮しつつ、安全な製品造りを継続的に追求します。
3. 法律や社会のルールとお客様との約束ごとを守り、内部・外部のコミュニケーションを円滑におこないます。
4. 持続可能な社会を目指して、食品ロス及び廃棄物の削減に取り組みます。
5. 定期的なマネジメントレビューをおこない、食品安全マネジメントシステムの維持・改善、製品の品質向上を図ります。
6. 安心・安全でより品質の高い製品をお客様に提供するために、知識や技術の習得・向上に努めてまいります。

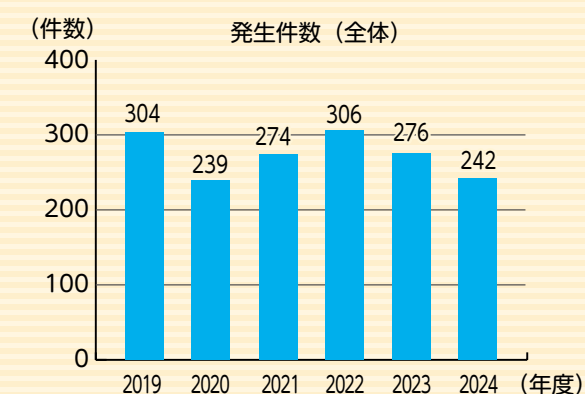
お申し出に関わる取組み

お客様よりいただきました商品に関する様々なお申し出につきましては、品質管理部が窓口になり、特に商品に問題があった場合は、危害性や拡散性の有無を評価し、原因の特定など迅速な調査と回答、その対策について取組みます。

ホームページへのお問い合わせは、ご指摘いただく内容もありますが、マルイ農協グループで生産している南国元気鶏や鶏卵、加工食品について美味しいので購入したいが、どこで買えますか、また、生産している鶏の飼料や育て方についてのご質問も多くいただいています。お申し出につきましては貴重なご意見として今後の商品づくりに活用させていただいています。

お申し出に対する分析と対策につきましては工場と品質管理部で確認し、確実な対策となっているかの有効性の評価を行っています。また月間と年間で集計を行い前年度との比較や傾向を分析し、再発防止に努めています。

《お申し出推移 2019～2024 年度グラフ》



商品検査の取組み

安全で確かな品質の商品をお届けするためにマルイ食品株式会社で生産される、鶏卵・鶏肉・加工品は定期的な微生物検査をグループ内、ラボラトリー室にて行っています。

鶏卵事業

洗卵、検卵後にロットごとの抜き取り検査を行い、生卵の鮮度を確保する指標である「ハウユニット値」の定期的な検査を実施しています。



鶏肉事業

食鳥検査法に基づき生体検査を実施し、検査に合格したものが、処理・加工されます。



加工事業

- 商品開発時
商品開発の段階で原料・初回製造品を検査して意図した商品に仕上がっているか、アレルギー管理に問題はないか成分規格に逸脱はないかのチェックをしています。
- 生産しながら
全製造ロット毎に品質が維持されているかの確認のために、微生物検査と検食を実施し、合格したもののみを出荷しています。
※微生物基準は法律より少し厳しい基準を設定して管理しています。
※検食者については自社基準を設け、合格者のみが行っています。

異物混入に関するお問い合わせ

マルイ農協ラボラトリー室にて実体顕微鏡や光学顕微鏡にて鑑定を行っています。また呈色反応試験により鉄、たん白質、血液、でんぷん、セルロース等の含有確認とカタラーゼ活性試験（加熱を受けているかの確認）も行っています。



異味、異臭に関するお問い合わせ

鶏肉 IQF 商品や加工食品は工場にキープサンプルを保管しています。お問い合わせの内容に基づいて同一ロットキープサンプル品の検食や微生物検査を行い、異常は無いか、拡散性は無いかについて確認しています。



インターネットやお電話に対するお問い合わせについて

ホームページやお電話でのお問い合わせにつきましては、内容に応じて返信しています。“美味しかったので購入したい、どこで購入出来る？”“異物混入ご指摘”“使用しているアレルギーは何？”“飼料について”“鶏について”など、お問い合わせ内容を部門ごとに割り振ることにより、より迅速にそして確実な返信ができるよう努めています。



お問い合わせの内容も部門ごとに分け、迅速で確実な対応に努めています。

〇〇〇について知りたいたいけど...

アレルギーに対する取り組み

アレルギーのクロスコンタクトに対する取り組みとして、商品の検査と工程の拭取り検査を行い、アレルギー事故の未然防止に努めています。商品については全ての商品を年に1回以上の頻度で検査を実施しています。また加工工場で使用する計量器具や容器についてもアレルギーごとの区分管理を行い、クロスコンタクトの防止に努めています。



※クロスコンタクト
クロスコンタクトとは、「交差接触」の意味

品質強化への取り組み

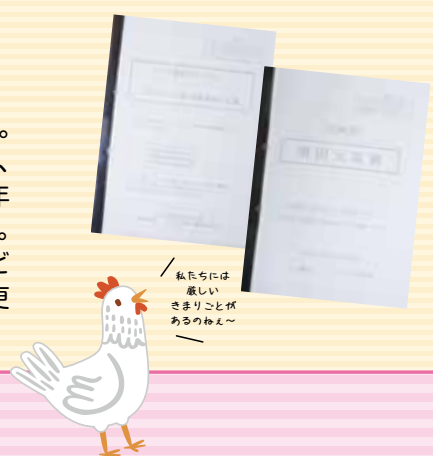
6月～8月を品質強化期間として、取り組みを行っています。この取り組みは気温が上がり食中毒の発生しやすい時期に特別の取り組みを行うことにより、品質に関する従業員の意識の向上を図り、食中毒事故を未然に防止することが目的です。



▲社内に掲示しているポスター

企画書、マニュアルについて

鶏卵、鶏肉製造履歴につきましては、全て明確になっています。鶏卵については鶏卵部門管理マニュアルを作成し、種鶏やひな、飼料、生産者、GPセンターについて規定しています。また毎年更新を行い、飼養管理、生産管理の変化に柔軟に対応しています。元気鶏についても“南国元気鶏”企画書を作成し、トレーサビリティやブロイラー生産処理体制の定義について規定し、毎年更新を行っています。



私たちに
載っている
ことか
あるのかよ

フードディフェンス（食品防御）について

工場で働く従業員の安全と生活を守るため、またサプライヤーとしての責任を果たすために、フードディフェンスについての取り組みを行っています。

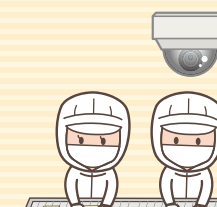
主な取り組み内容につきましては、工場敷地の管理、工場内施設管理、安心カメラの設置、従業員につきましても、ご意見箱設置、従業員面談、慰労会や、レクリエーションなど、明るく楽しい職場環境となっています。



ご意見箱



球技大会



安心カメラ

※フードディフェンス
食品への意図的な異物や有害物質の混入を防ぐための取り組み

ISO、HACCP 認証について

安心・安全な商品をお届けするために、鶏卵（GPセンター）、鶏肉処理工場では HACCP 手法を取り入れた製造管理を行っています。また鶏肉加工品や、加工品製造工場は、国際認証の FSSC22000、ISO22000 を取得しています。

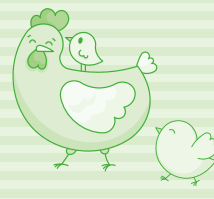
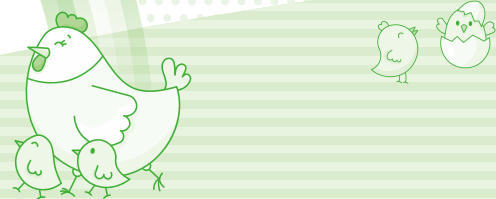
ISO、FSSCの国際認証を取得し運用することで、顧客満足と食品安全に努めています。

・マルイ食品高尾野工場	FSSC22000	(2017年 5月 15日取得)
・マルイ食品米ノ津工場	ISO22000	(2021年 7月 14日取得)
・マルイ食品松尾工場	ISO22000	(2017年 9月 25日取得)
・マルイ食品しらぬい工場	ISO22000	(2017年 10月 12日取得)
・マルイ食品調味料工場	ISO22000	(2011年 4月 26日取得)
・マルイ食品大口工場	ISO22000	(2022年 11月 11日取得)
・マルイ食品出水 GP センター	HACCP	(2019年 10月 15日取得)



環境方針

私たちマルイ食品株式会社は、鶏の命を扱う企業として「生きものの命の大切さ」を働く仲間全員が認識し、「いのち」と「自然」が調和しつづける社会を目指して事業活動における環境への影響の予防と低減に取り組みます。



低炭素社会を目指して



環境啓発活動

従業員一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるよう、環境方針を全従業員に周知するとともにホームページ上に公表しています。

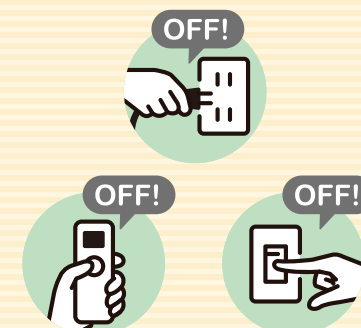
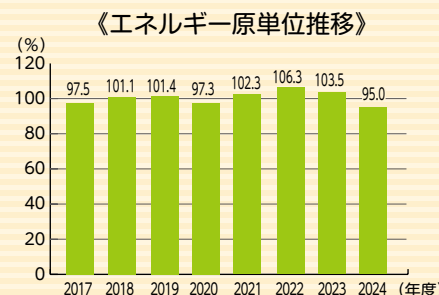
環境方針

1. 鶏卵・鶏肉の処理・販売や加工食品の開発・製造・販売に際し、資源・エネルギー（電気、ガス、重油等）の節約、再資源化、再資源利用等を推進し事業活動全体での省資源・省エネルギーに努めます。
2. 環境に関連する法規制や自治体との協定、地域や業界団体などとの同意事項を遵守するとともに、必要に応じて自主基準を定め遵守します。
3. 目標と達成の施策を明確にし、進捗状況を定期的に確認することにより、改善・強化を図ります。また、毎年経営者により環境方針、環境目的・目標の妥当性を確認します。
4. 環境問題に関して、組織のために働く全ての人々に対し教育を行い、意識を高めるとともに会社だけでなく地域においても環境保全活動の取り組みを促します。
5. 環境方針をホームページに掲載するとともに、各事業所に掲示します。

2011年10月1日
マルイ食品株式会社

省エネ委員会

環境方針をもとに、省エネ委員会を開催しています。委員会はエネルギー管理統括者を中心に各環境委員で構成され、事業本部ごとに推進委員会を組織し、省エネルギー、省資源化に努めています。
※対前年度比 1%削減を目標に取り組みを行っています。



再生可能エネルギーへの取り組み

環境への取り組みとして工場の屋根に「太陽光発電システム」を導入しています。無限でクリーンな太陽のエネルギーを活かし、脱炭素社会実現に向けた取り組みを行っています。
2021年度より、GPセンターへ「自家消費型太陽光発電システム」の設置を行いました。



2024年度年間発電量実績
933,635kWh

食品残渣リサイクル～資源への循環

工場から日々発生する食品残渣、もともとは衛生的な材料です。これらは全て専門業者へお願いし、発酵させ「堆肥」へとリサイクルされ、新しい資源に生まれ変わります。また加工工場で毎日大量に使用されるフライヤーの油につきましても還元装置を導入し使用量の削減に努めています。



2024年度年間食品廃棄物の総量
655トン
そのうちリサイクルされた量
655トン
(100%)



地域貢献について

工場見学について

地元の企業や食べ物についての理解を地域社会により深めてもらえるよう、小・中学生を中心に社会科見学の一環として工場見学の受入れを実施しています。

※ 2024 年度は、62 名を受入れました。



見学させてもらってありがとうございました。わたしは、朝食でよくたまごを使ったりよう理を食べるので調べるのにちょうどよかったです。マルイ工場って、こんなふうをしていると分かりました。

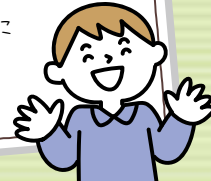
お礼の手紙



マルイ工場のみなさんタマゴ工場のことを教えてくれてありがとうございました。水であらうきかいでその水がかわかしたりするきかいがあつてとてもびっくりしました。これからいろいろなしごとをがんばってください。



タマゴにもしゅるいがあるのを知らなかったです。たしか赤色のタマゴがポリスブラウン白色のタマゴがジュリアライトでしたよね。いろいろなことをおしえてくださって本当にありがとうございます。



職場体験学習の受入れについて

工場では中学生、高校生の職場体験学習を受入れています。受入れ人数は多くはありませんが、働くことの意義や社会のルールを学ぶ機会として、また地元企業の認知や理解を深めようするために、受入れを行っています。



海外実習生の受入れ

食鳥処理場や加工工場ではベトナム、ウズベキスタンからの外国人技能実習生の受入れを行っています。専用の宿舎を完備し、工場のルールから衛生管理、日本語をしっかりと学んだ後に、各工場実務の教育を行っています。工場のイベントにも参加してもらい、日本の文化や日本を好きになってもらえるよう交流を深めています。

技能実習生在籍数
(2025 年 2 月末現在)

野 田 工 場	94 名
野田第 2 工場	24 名
高 尾 野 工 場	13 名
米ノ津工場	14 名
松 尾 工 場	23 名
しらぬい工場	11 名
合 計	179 名



たまご学習会

マルイ農協グループでは“たまご”についての学習会を地元の小学生において開催しています。学習会では、たまごの赤玉と白玉の違いや、構造やエサについて、農場から G P センターで処理されるまでの流れについてなど児童たちに分かりやすく説明しました。



障害者雇用について

マルイ食品株式会社では障害のある人が、その能力と適性に応じて一般の人と同様に働ける社会の実現を目指して雇用を促進しています。2020 年度には、その功績が認められ、「障害者雇用優良事業所機構理事長表彰」を受けました。

マルイふるさと文庫活動報告

地域貢献事業として事業所のある近隣の全ての小学校へ、合わせて 6,000 冊の本を贈る取組みを 2020 年度より企画しています。2024 年度は小学校の 9 校に合わせて 636 冊の本を贈りました。



健全な職場環境の維持・推進について

保育所の開設について

マルイグループでは企業主導型保育事業として“マルイびよびよ保育園”を 2019 年 5 月に開園しています。マルイ食品株式会社の従業員のお子様や地域のお子様についてもお預かりし、働くパパ、ママの就労支援を行っています。



コンプライアンス体制と委員会の開催について

コンプライアンスを経営の重要課題の一つとして位置づけ法令等の遵守を重視した経営を行っており、お客様及び地域社会からの信頼を得ていくために全従業員がコンプライアンスの実践に取り組んでいます。

コンプライアンス委員には外部委員も招集し、自主的なコンプライアンス活動を実践するために事業部ごとに取組みを行ない、年に 2 回コンプライアンス委員会を開催し、報告を行っています。

鶏魂祭

私たちの事業は鶏によって成り立っています。

鶏の命を扱う企業として鶏に感謝し、その供養のために毎年秋に鶏魂祭を行っています。鶏魂祭にはマルイグループ代表をはじめ多くの関係者が参列します。2020 年～ 2022 年までは、新型コロナウイルスの影響により関係者のみとなっておりましたが、2023 年度よりこれまでどおりの開催となりました。



行動指針

私たちマルイ食品株式会社は、役員・従業員一人ひとりが高い倫理観を持ち、誠実な企業行動を実行してまいります。

マルイのSDGsへの取り組み



SDGsは2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。マルイ食品株式会社もSDGsの持続可能な目標達成のため取り組みを行っています。

飢餓のない世界を目指して



レッドカップキャンペーンの取り組み



マルイ食品株式会社では「世界の恵まれない子供たちのために何か支援できることはないか」と考え2013年度より国連WFP協会（特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画 WFP 協会）が主催する学校給食支援「レッドカップキャンペーン」に参画しています。

今後も引き続き参画し、一人でも多くの子供たちに笑顔届けられるよう応援してまいります。

2024年度の寄付金
2,749,363円



2013年4月～2025年3月までの
寄付金総額

30,128,793円



©WFP/Marcus Prior

会社概要

名 称	マルイ食品株式会社
所 在 地	〒899-0297 鹿児島県出水市平和町225番地
社 長	宇都 浩司
設 立	1975年10月1日
資 本 金	100,000 千円
従業員数	1,360 名 (2025 年 2 月末)
年間売上	約 389 億円 (2024 年度)
	鶏卵事業部 142 億円
	鶏肉事業部 143 億円
	加工事業部 104 億円
事 業 所	出水 GP センター
	野田工場
	野田第 2 工場
	大口工場
	調味料工場
	高尾野工場
	米ノ津工場
	松尾工場
	しらぬい工場
	冷蔵倉庫
営 業 所	出水営業所
	鹿児島営業所
	熊本営業所
	宮崎営業所
	北摂営業所
	京都営業所
	加古川営業所
	堺営業所
	東日本加工食品販売課
	中部近畿加工食品販売課
	西日本加工食品販売課



マルイ農業協同組合

〒899-0297 鹿児島県出水市平和町225番地
TEL 0996-63-0101 FAX 0996-63-7662

マルイ食品株式会社

〒899-0297 鹿児島県出水市平和町225番地
TEL 0996-63-1111 FAX 0996-64-1234

マルイファーム株式会社

〒899-0217 鹿児島県出水市平和町264-1
TEL 0996-63-0425 FAX 0996-63-0040

マルイ運輸株式会社

〒899-0121 鹿児島県出水市米ノ津町56-69
TEL 0996-67-3911 FAX 0996-67-3984

マルイ飼料株式会社

〒899-0202 鹿児島県出水市昭和町59-5
TEL 0996-62-2434 FAX 0996-63-2363

マルイ事業協同組合

〒899-0297 鹿児島県出水市平和町225番地
TEL 0996-63-0101 FAX 0996-63-7662

二次元バーコードよりマルイ農協グループの
ホームページをご覧ください。

<https://www.marui.or.jp>

